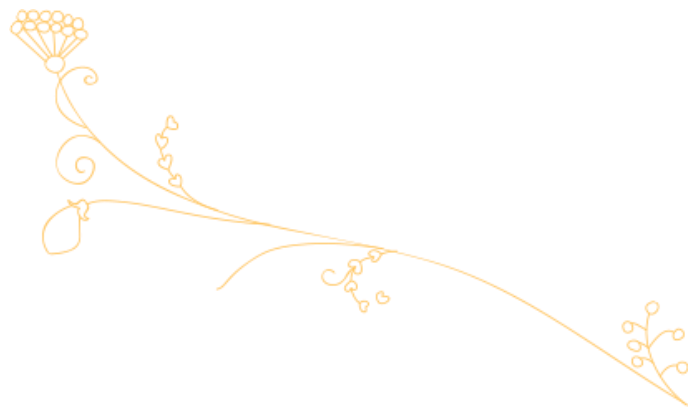




2018年12月期第2四半期 決算説明資料

2018年8月
株式会社セレス（東証第一部：3696）



1. ビジョンとビジネスモデル
2. 2018年12月期第2四半期 決算概要
3. 事業概況と成長戦略
4. 2018年12月期 連結業績予想



1. ビジョンとビジネスモデル

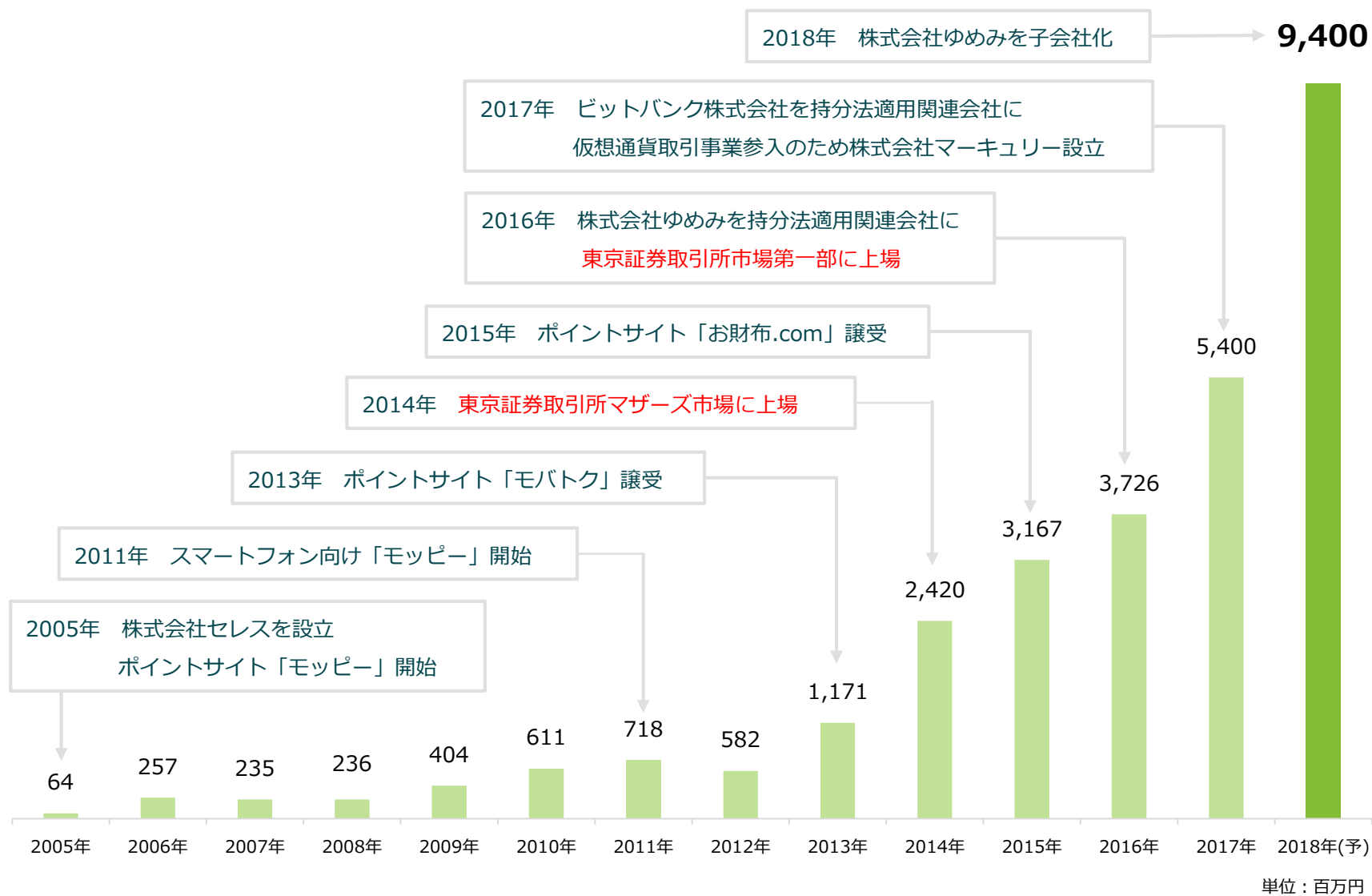
インターネットマーケティングを通じて 豊かな世界を実現する

セレスは、社会インフラとなったインターネットを通して、様々なマーケティングサービスを提供することにより、豊かな社会生活の実現をはかります。



CERESとはギリシャ神話の「大地の女神」、「五穀豊穡の神」。
CERESはローマ名で、ギリシャ名はDemeter（デメテル）。

セレス成長の軌跡



モバイルサービス事業

成功報酬型スマートフォンメディアとして、「モッピー」・「モバトク」・「お財布.com」のポイントメディアの運営を行うとともに、アルバイト求人サイト「モッピーバイト」やコミックサイト「チケコミ」、スマホゲーム比較サイトの「LookApp」等複数のコンテンツメディアを展開しています。

ポイントメディア

コンテンツメディア

フィナンシャルサービス事業

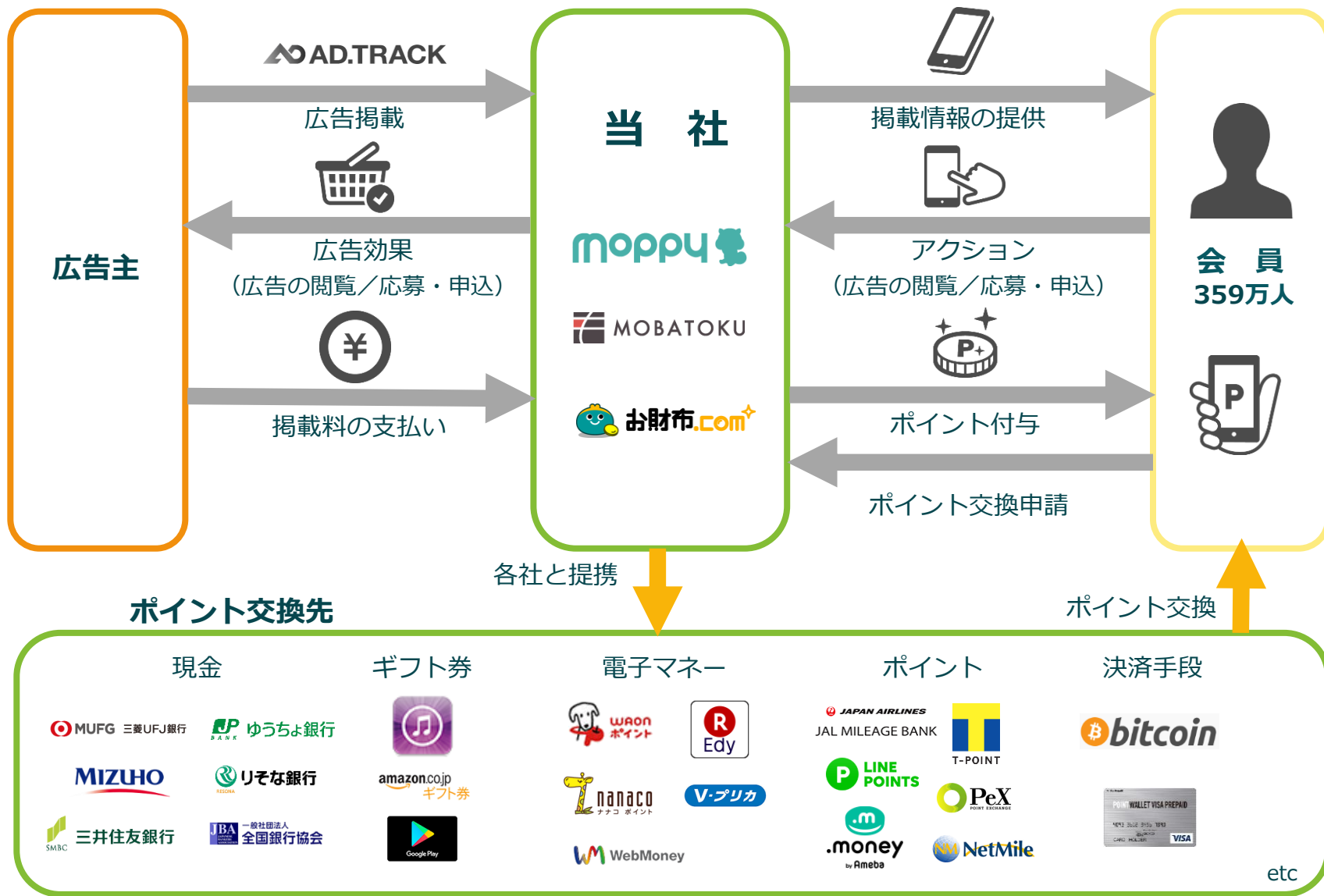
フィナンシャルサービスとして仮想通貨関連・スマートフォン決済・投資育成事業を展開しております。仮想通貨関連では、子会社マーキュリーにて仮想通貨取引所開設に向けた準備を行うと共に、仮想通貨マイニングを開始しております。スマートフォン決済では、ポイント決済が可能な「POINT WALLET VISA PREPAID」を発行しております。

仮想通貨関連

スマートフォン決済

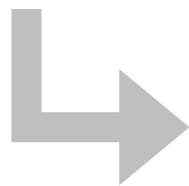


ポイントメディアのビジネスモデル



トークン（Token）とは？

しるしや代用貨幣や商品引換券などと訳される



ポイント



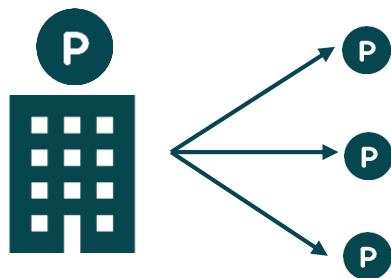
電子マネー



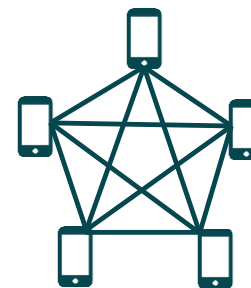
仮想通貨

※仮想通貨業界では仮想通貨=トークンといった形でつかわれるが、ここでは広義に解釈。

グローバルで進む「非現金決済による経済活動」に継続して注力



中央集権的なポイントビジネス



分散型のブロックチェーンビジネス



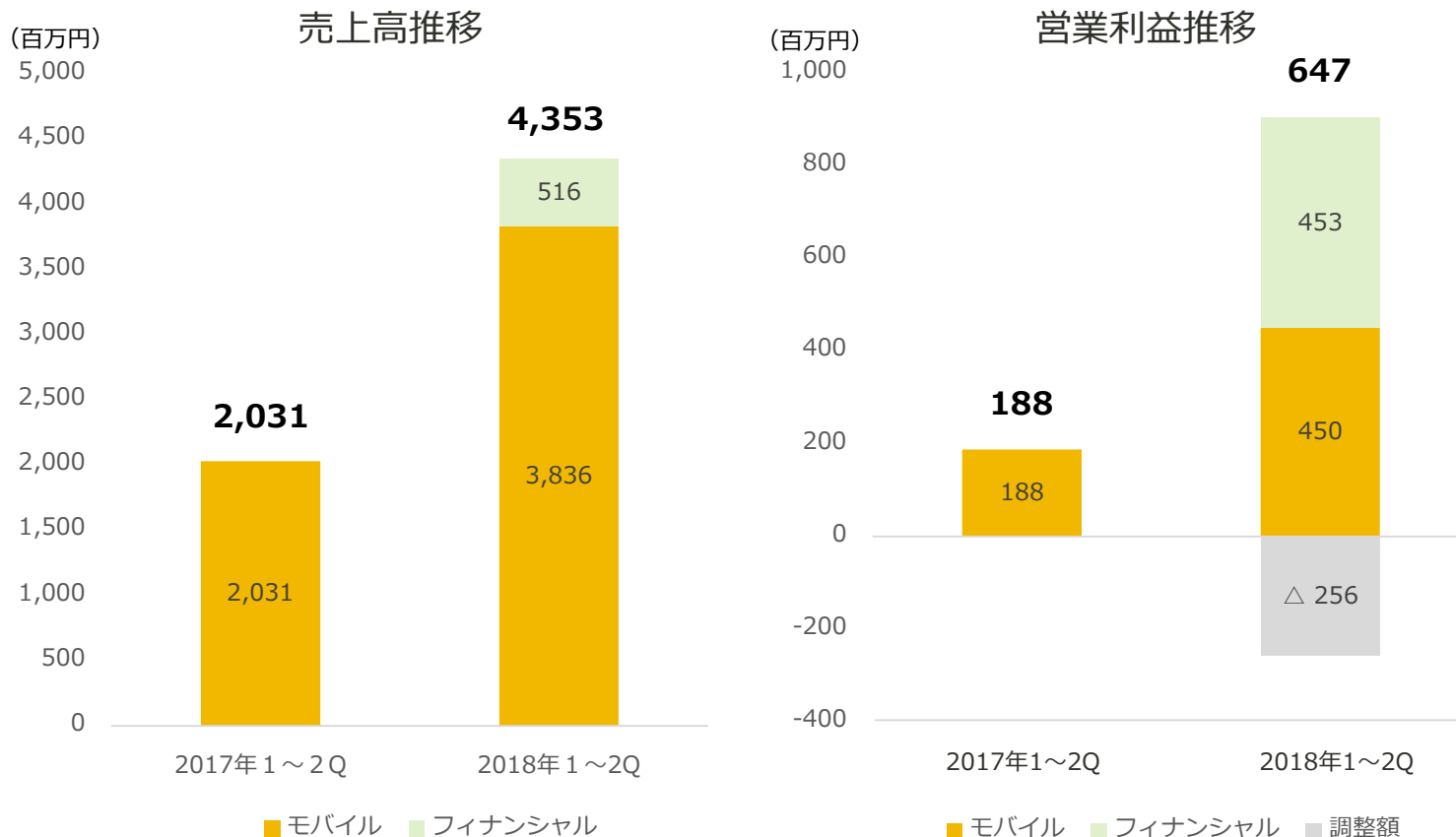
2. 2018年12月期第2 四半期 決算概要

2018年12月期第2四半期（累計） 決算概要

売上高	4,353百万円	（前年同期比 114.3%増 ）
営業利益	647百万円	（前年同期比 244.1%増 ）

- 売上高はポイントメディア・コンテンツメディアともに大きく伸び
前年同期比2倍強と114%増の大幅増収を達成
- 営業利益はコンテンツメディアや仮想通貨事業への投資をこなし
前年同期比3.4倍と244%増の大幅増益
- コインチェック株式の売却益を当第2四半期に計上
- ゆめみ株式を追加取得し連結子会社化（第3四半期から連結化）

ポイントメディア・コンテンツメディアの大幅な成長とともに コインチェック株式の売却益が大きく利益貢献

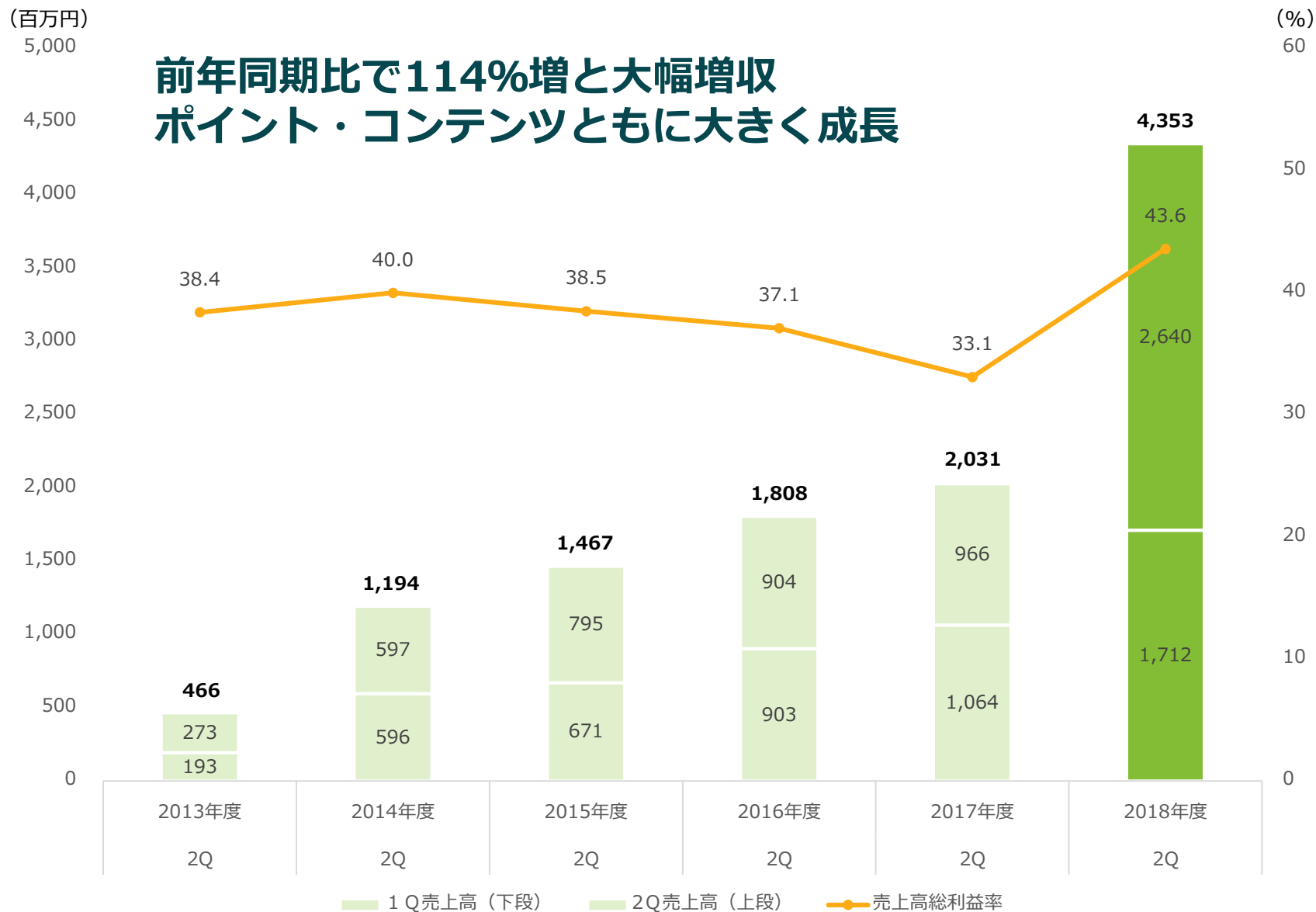


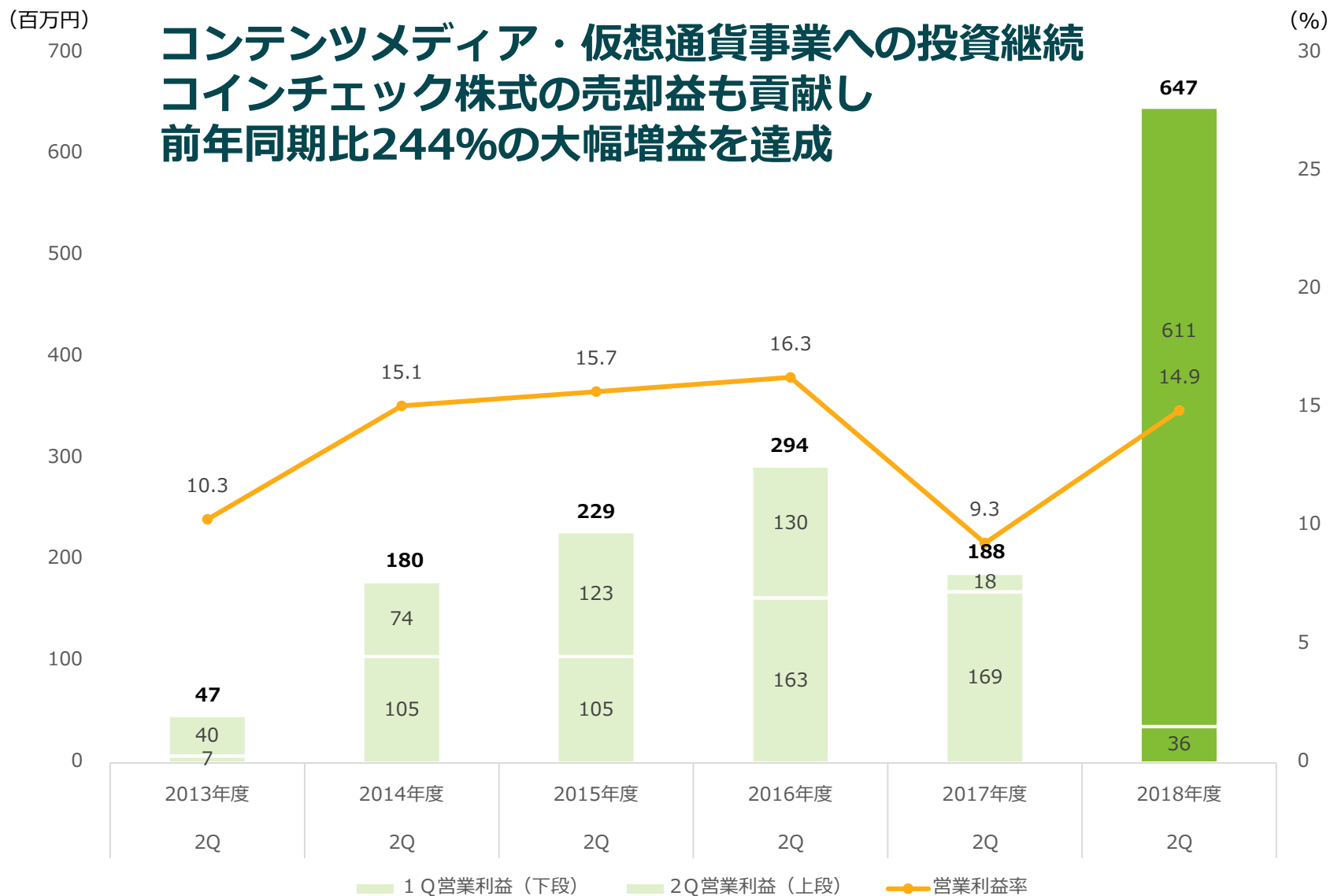
※2017年度第3四半期よりセグメントの区分けを開始したため、2017年1~2Qの数値には調整額の表記はございません。

損益計算書の概要（第2四半期累計）

(単位：百万円)	2018年12月期 第2四半期累計	2017年12月期 第2四半期累計	前年同期比
売上高	4,353 (100.0%)	2,031 (100.0%)	+114.3%
売上総利益	1,899 (43.6%)	672 (33.1%)	+182.3%
販売費及び一般管理費	1,252 (28.8%)	484 (23.9%)	+158.4%
営業利益	647 (14.9%)	188 (9.3%)	+244.1%
経常利益	640 (14.7%)	188 (9.3%)	+240.4%
当期純利益	420 (9.7%)	121 (6.0%)	+244.5%
EBITDA	743 (17.1%)	240 (11.8%)	+208.9%

※EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費



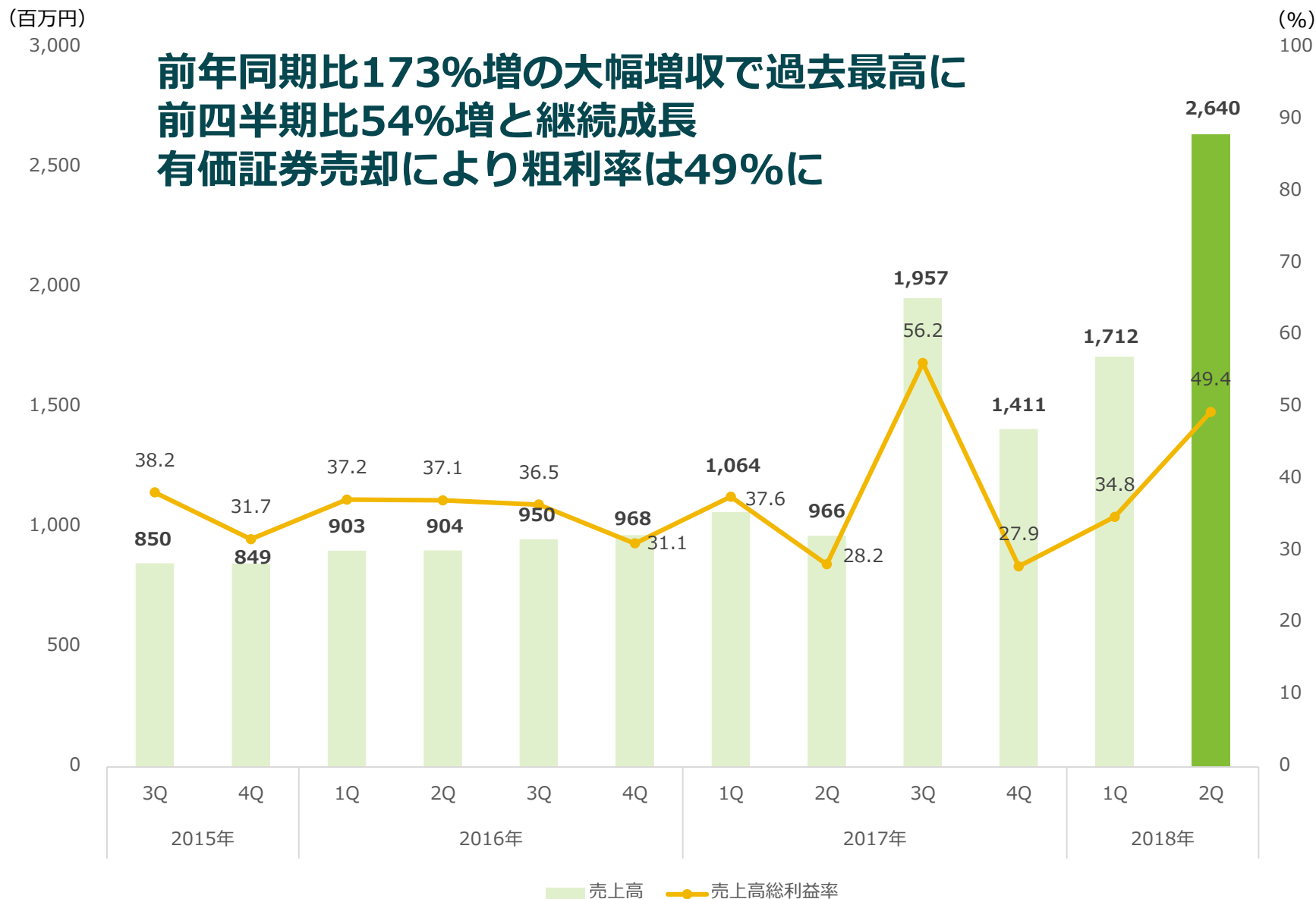


損益計算書の概要（第2四半期）

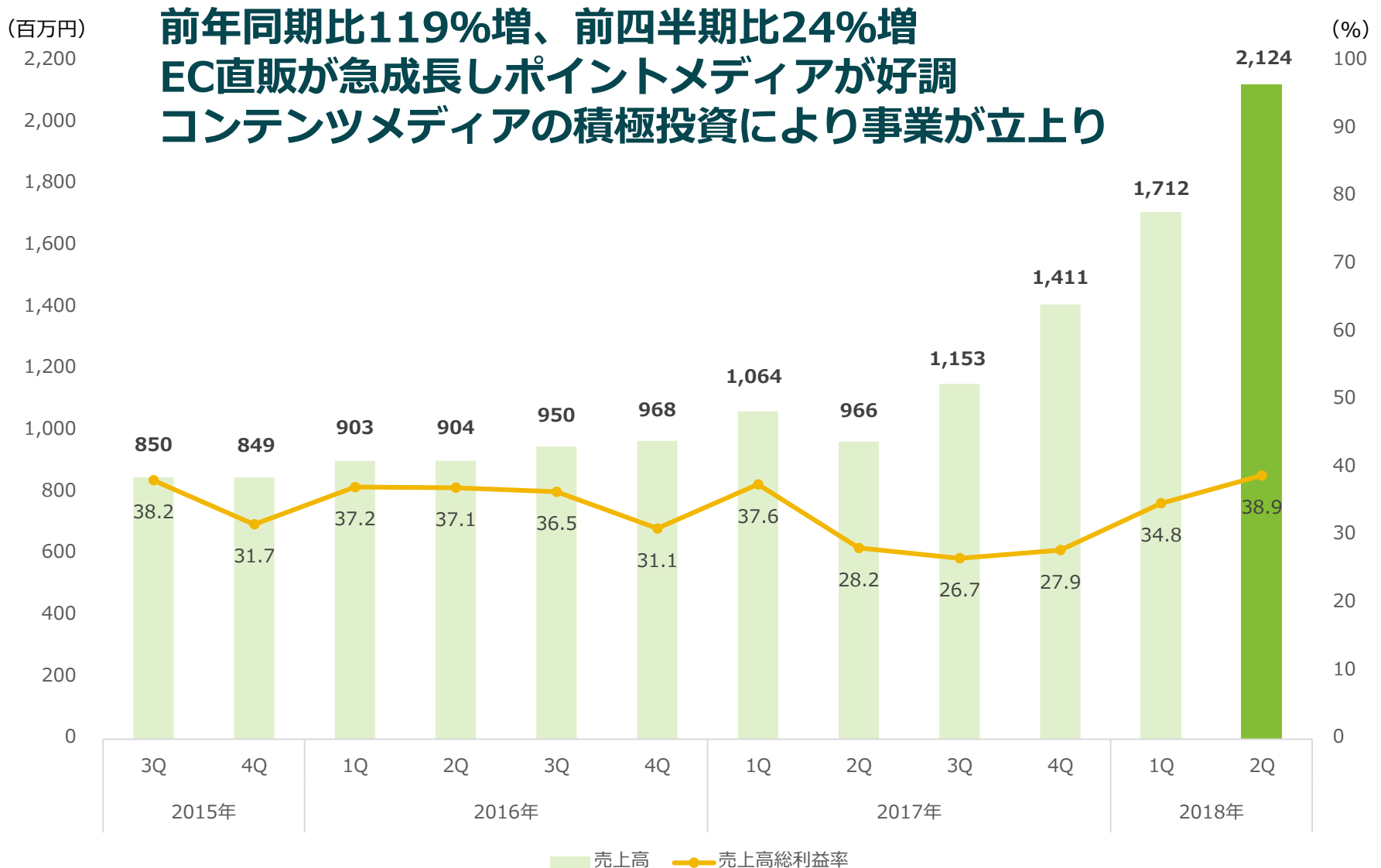
(単位：百万円)	2018年12月期 2 Q (2018年4 - 6月)	2017年12月期 2 Q (2017年4 - 6月)	前年同期比	2018年12月期 1 Q (2018年1 - 3月)	前四半期比
売上高	2,640 (100.0%)	966 (100.0%)	+173.1%	1,712 (100.0%)	+54.2%
売上総利益	1,303 (49.4%)	272 (28.2%)	+378.9%	596 (34.8%)	+118.7%
販売費及び 一般管理費	692 (26.2%)	253 (26.3%)	+172.6%	560 (32.7%)	+23.6%
営業利益	611 (23.2%)	18 (1.9%)	+3250.0%	36 (2.1%)	+1594.1%
経常利益	610 (23.1%)	20 (2.1%)	+2950.1%	30 (1.8%)	+1926.7%
四半期純利益	408 (15.5%)	12 (1.3%)	+3056.7%	11 (0.7%)	+3445.8%
EBITDA	669 (25.3%)	48 (5.0%)	+1282.7%	74 (4.4%)	+798.0%

※EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

四半期売上高推移



四半期売上高推移（有価証券売却分除く）

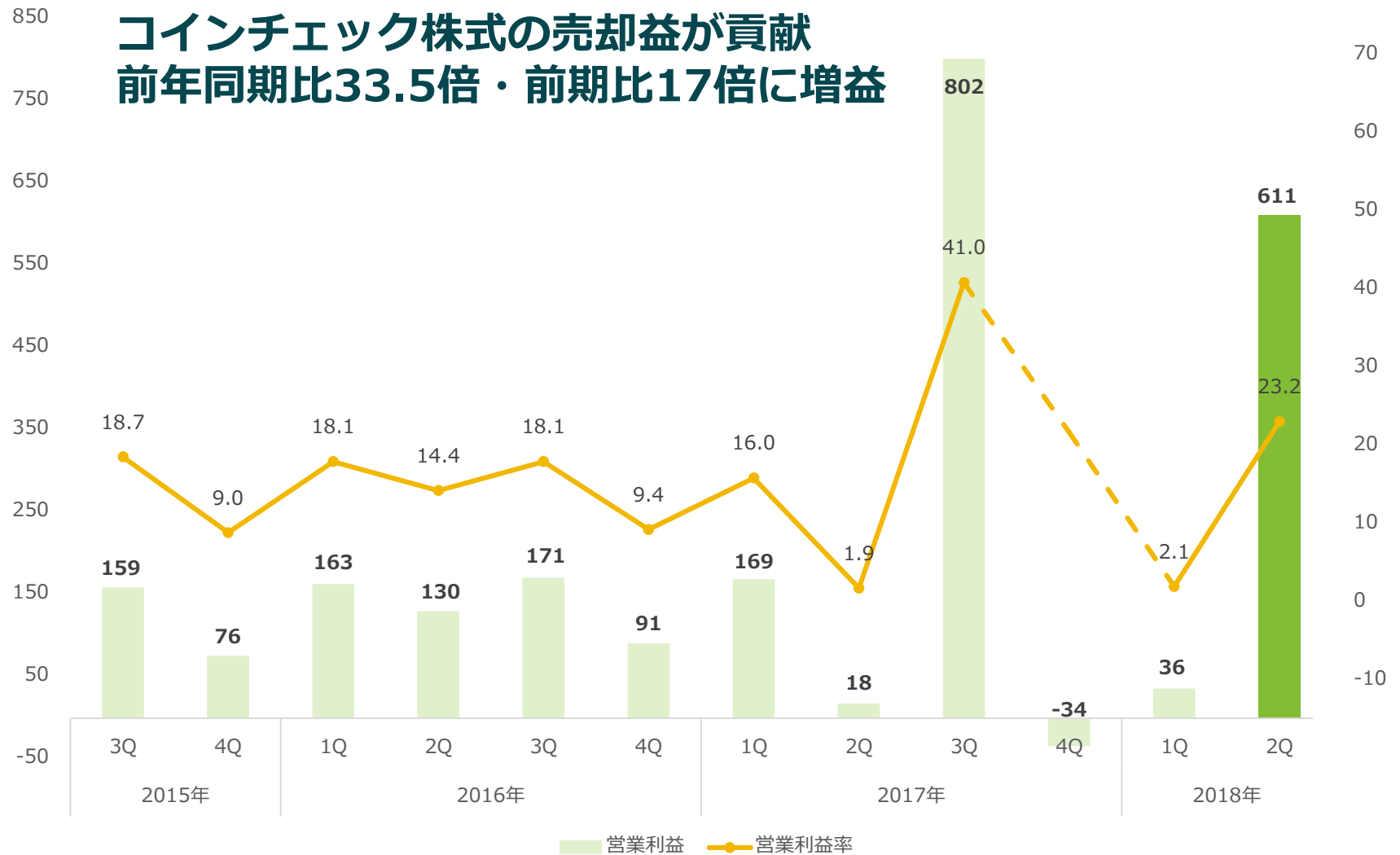


四半期営業利益推移

(百万円)

**コンテンツメディアへの積極的な広告投資を継続
コインチェック株式の売却益が貢献
前年同期比33.5倍・前期比17倍に増益**

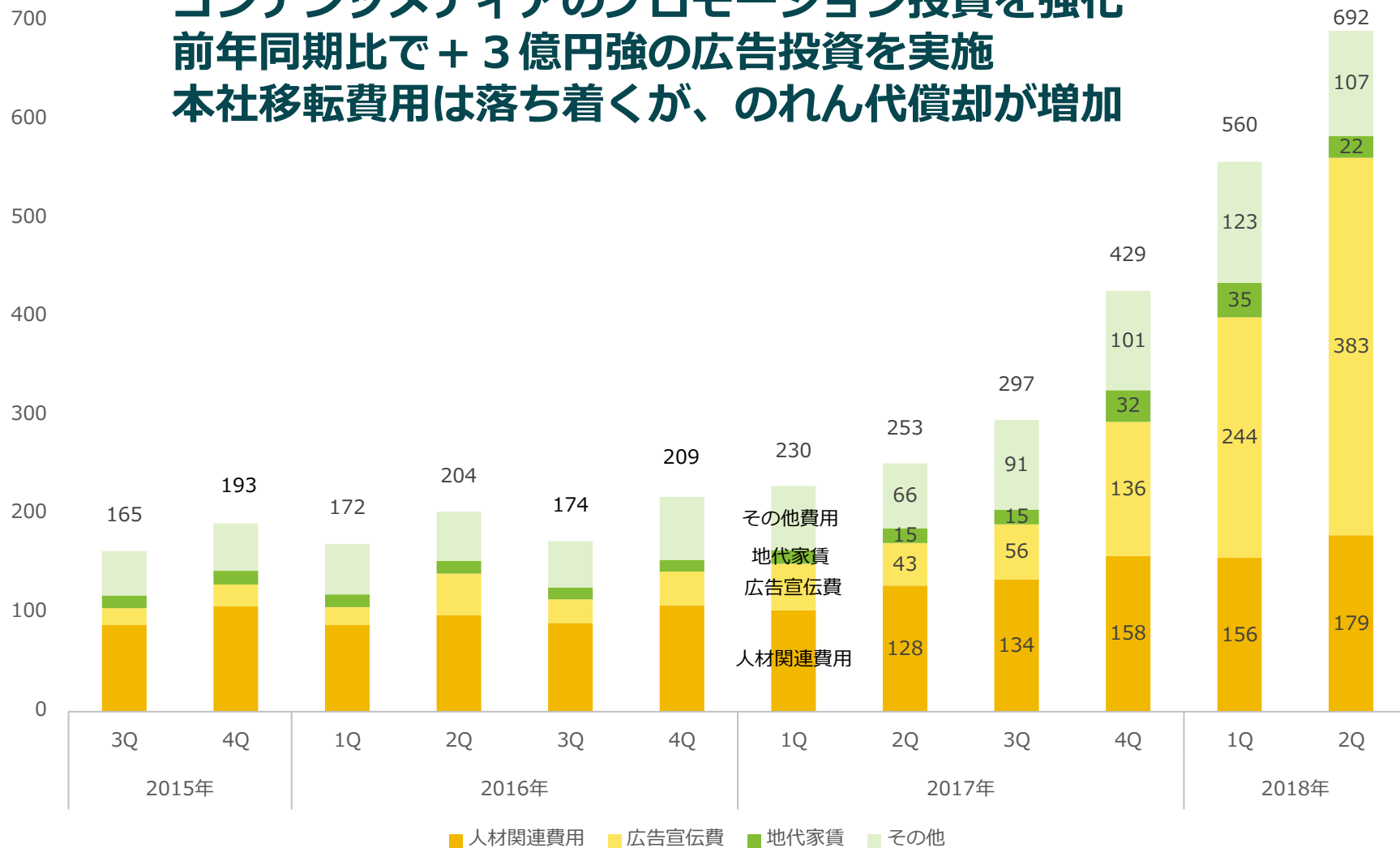
(%)



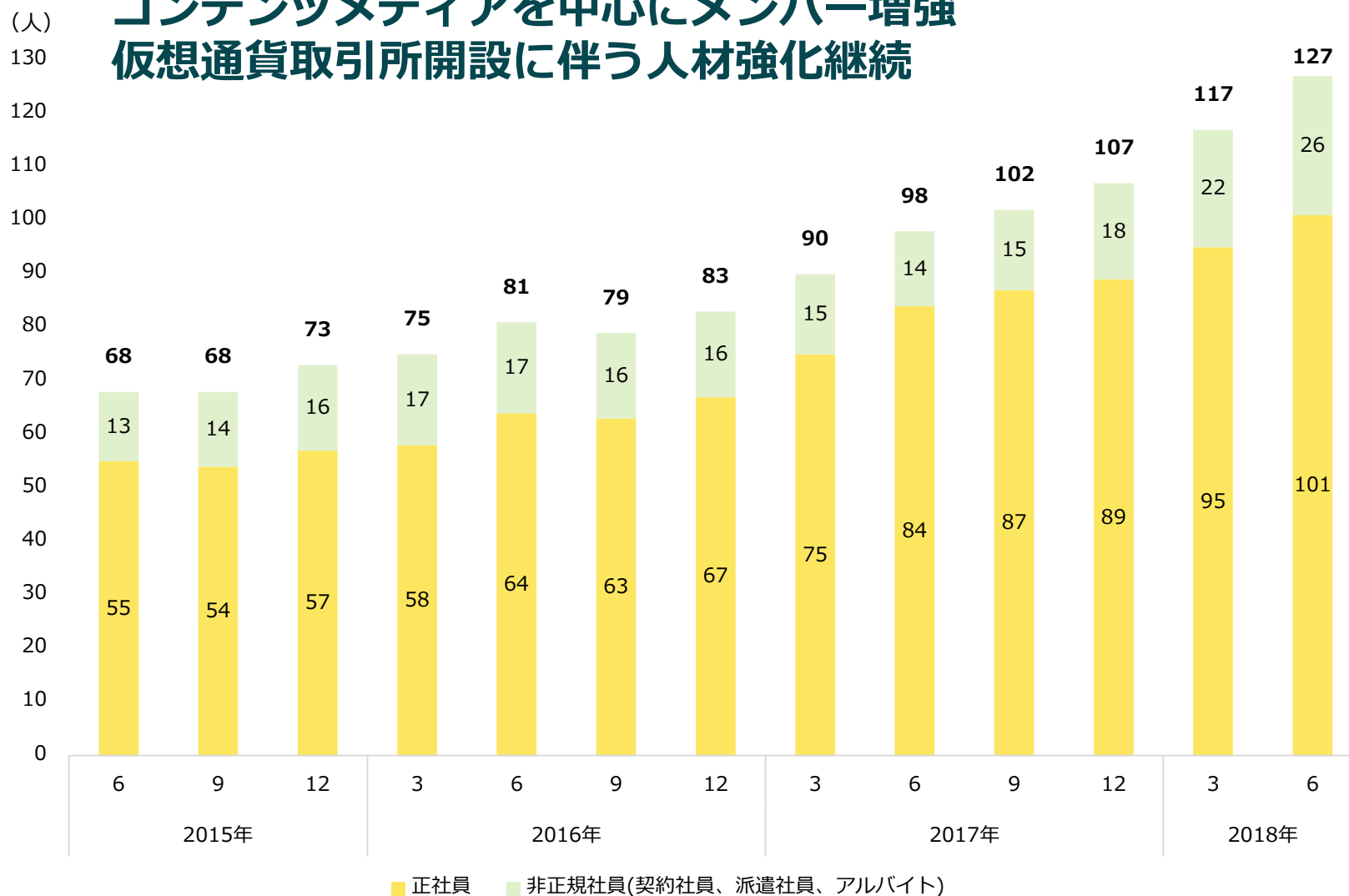
四半期販売費及び一般管理費推移

(百万円)

**コンテンツメディアのプロモーション投資を強化
前年同期比で+3億円強の広告投資を実施
本社移転費用は落ち着くが、のれん代償却が増加**



コンテンツメディアを中心にメンバー増強 仮想通貨取引所開設に伴う人材強化継続



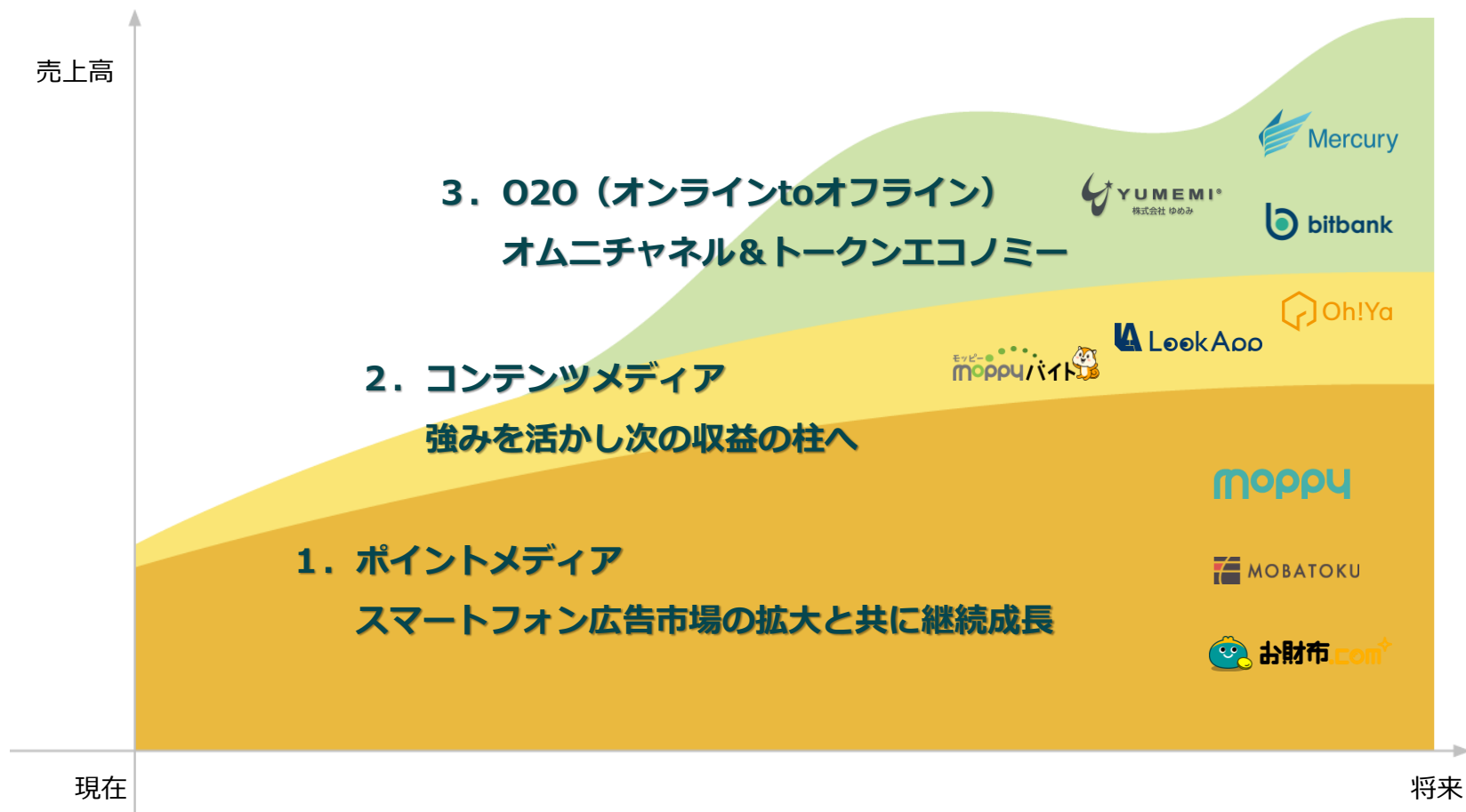
貸借対照表の概要

(単位：百万円)		2018年12月期 第2四半期末	2017年12月期 期末	前年増減額	主な要因
流動資産	5,454 (58.7%)	5,673 (71.0%)	-219	現金及び預金 -735 売掛金 +410 営業投資有価証券 +160	
固定資産	3,832 (41.3%)	2,317 (29.0%)	+1,515	のれん +988 繰延税金資産 +425	
資産合計	9,286 (100.0%)	7,991 (100.0%)	+1,295		
流動負債	2,201 (23.7%)	1,831 (22.9%)	+369	1年以内返済予定の長期借入金 +246 ポイント引当金 +115	
固定負債	1,126 (12.1%)	575 (7.2%)	+551	長期借入金 +548	
負債合計	3,327 (35.8%)	2,407 (30.1%)	+920		
純資産合計	5,959 (64.2%)	5,583 (69.9%)	+375	四半期純利益 +408 配当金 -130	
負債・純資産合計	9,286 (100.0%)	7,991 (100.0%)	+1,295		



3. 事業概況と成長戦略

「ポイントメディア+a」へ投資を拡大し中長期成長を果たす



2018年12月期第2四半期 トピックス

2018年12月期
第2四半期

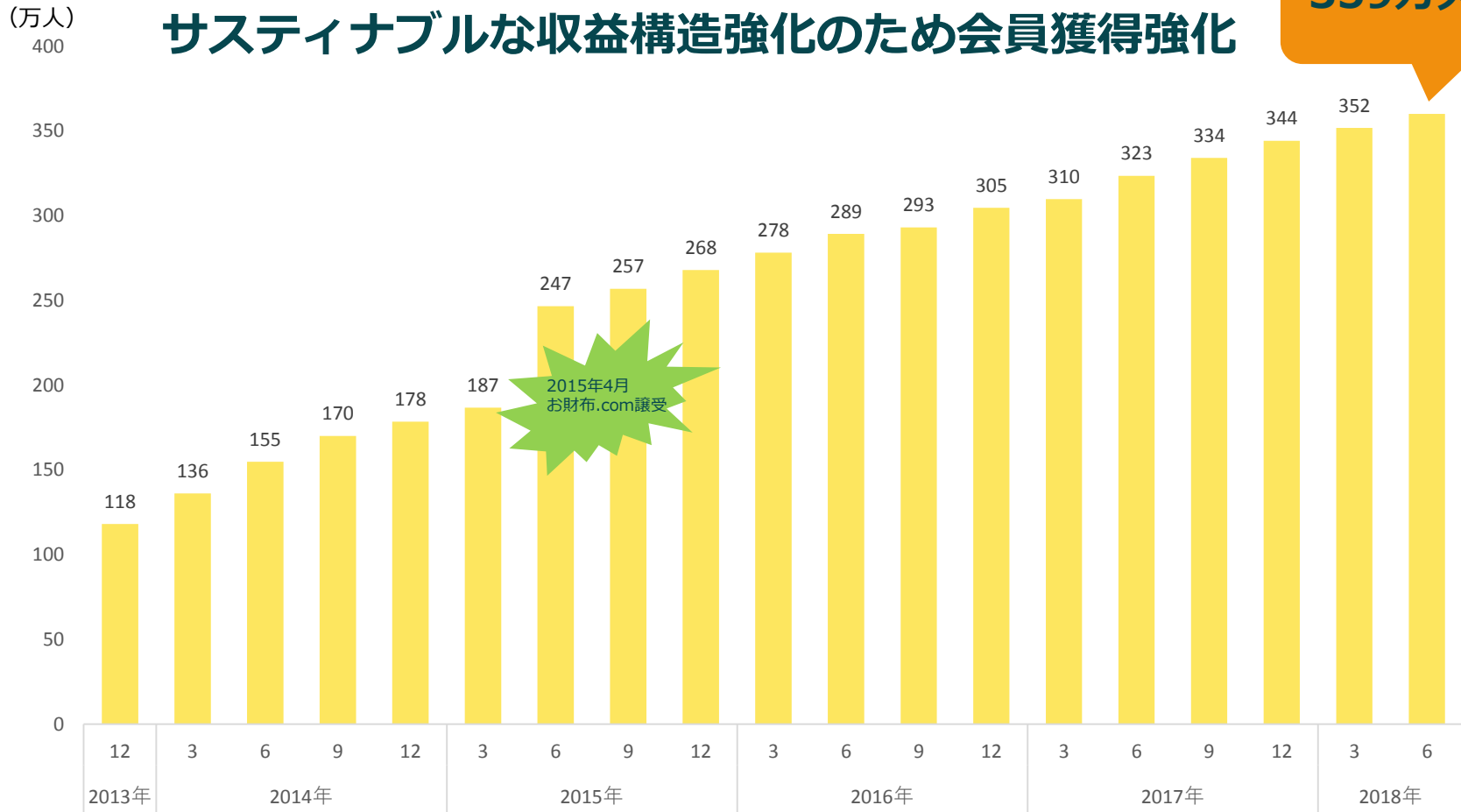
- 4/2 ④ オメガ（株）の広告配信技術を「moppyキーボード」アプリに採用
- 4/16 ⑤ コインチェック（株）株式をマネックスグループ（株）に売却
- 4/27 ⑤ （株）グッドラックスリーと共同でブロックチェーンゲームを発表
- 5/22 ④ 「Amazonプライムギフトコード」へのポイント交換を開始
- 6/18 ⑤ 「くりぷ豚」を配信開始
- 6/18 ⑤ フレセツ（株）への追加出資
- 6/22 ⑤ ビットバンク（株）に業務改善命令

2018年12月期
第3四半期

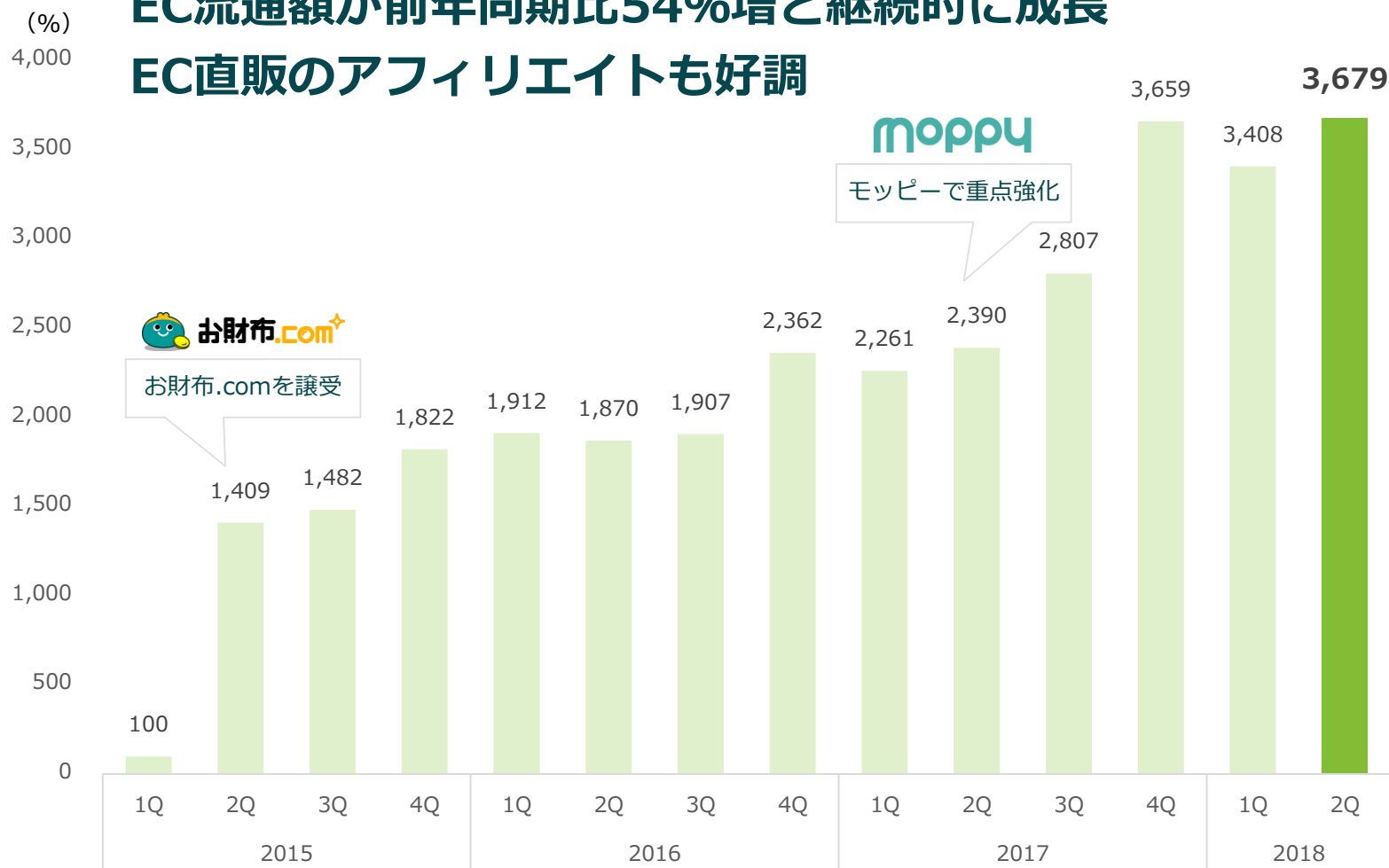
- 7/3 ⑤ （株）ゆめみの第三者割当増資の引受（子会社化）
- 7/13 ④ （株）CAMPFIREと資本業務提携
- 7/19 ⑤ 「くりぷ豚」が「IndieSquare Wallet」と提携
- 7/23 ⑤ ビットバンク（株）が改善計画書を提出
- 8/10 ⑤ （株）GINKANと資本業務提携

※ ④ : ポイントメディア、⑤ : コンテンツメディア、⑥ : フィナンシャルサービス

アクティブ会員数は359万人に成長 ソラチカルート改変で新規伸び悩み サステイナブルな収益構造強化のため会員獲得強化

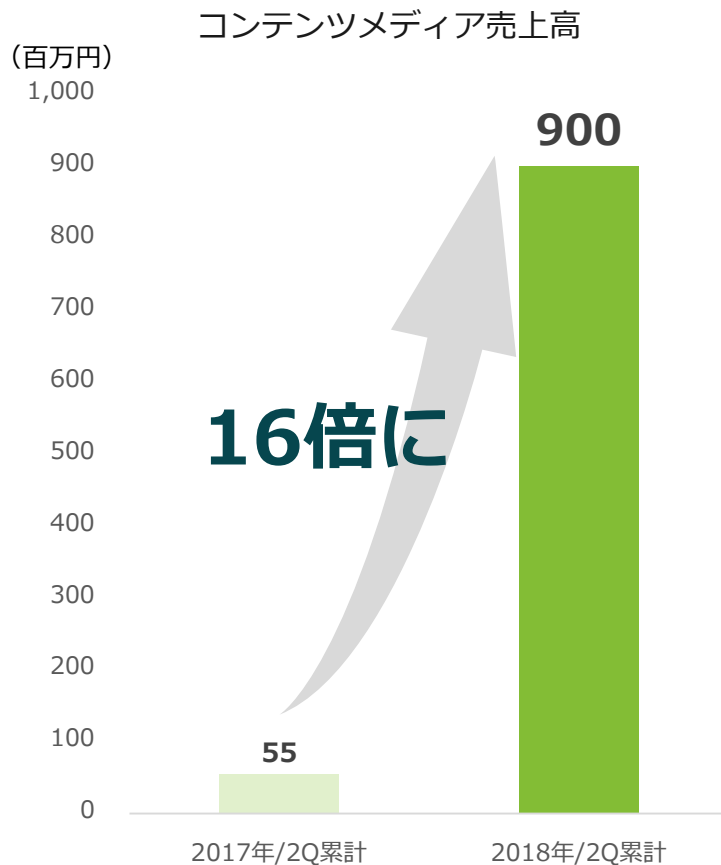


スマホEC市場の拡大と前年からの重点強化により EC流通額が前年同期比54%増と継続的に成長 EC直販のアフィリエイトも好調



※2015年度第1四半期を100%とした際の比較

積極的な広告投資が奏功し各コンテンツメディアが大幅成長中
M&A効果もあり売上高は第2四半期累計比で16倍に伸長



アルバイト求人サイト「モッピーバイト」

採用課金型アルバイト求人サイト
リブランドを実施しSEO対策を強化
Indeed広告販売とクロスセル実施



基本無料のコミックサイト「チケコミ」

フリーミアムモデルのコミックサイト
リブランドを実施しプロモーションを強化
仕入強化により成長を目指す



©天医無縫・伊月慶悟、地引かずや/日本文芸社

投資用不動産情報サイト「Oh!Ya」

初心者から使える投資用不動産情報サイト
効率的な広告投資により費用対効果の
高い広告出稿が可能に



オムニチャネル支援大手のゆめみを子会社化

第三者割当増資引受により3億2,000万円を出資し株式持分が48%にゆめみの子会社化に伴い2018年12月期第3四半期より連結決算へ移行

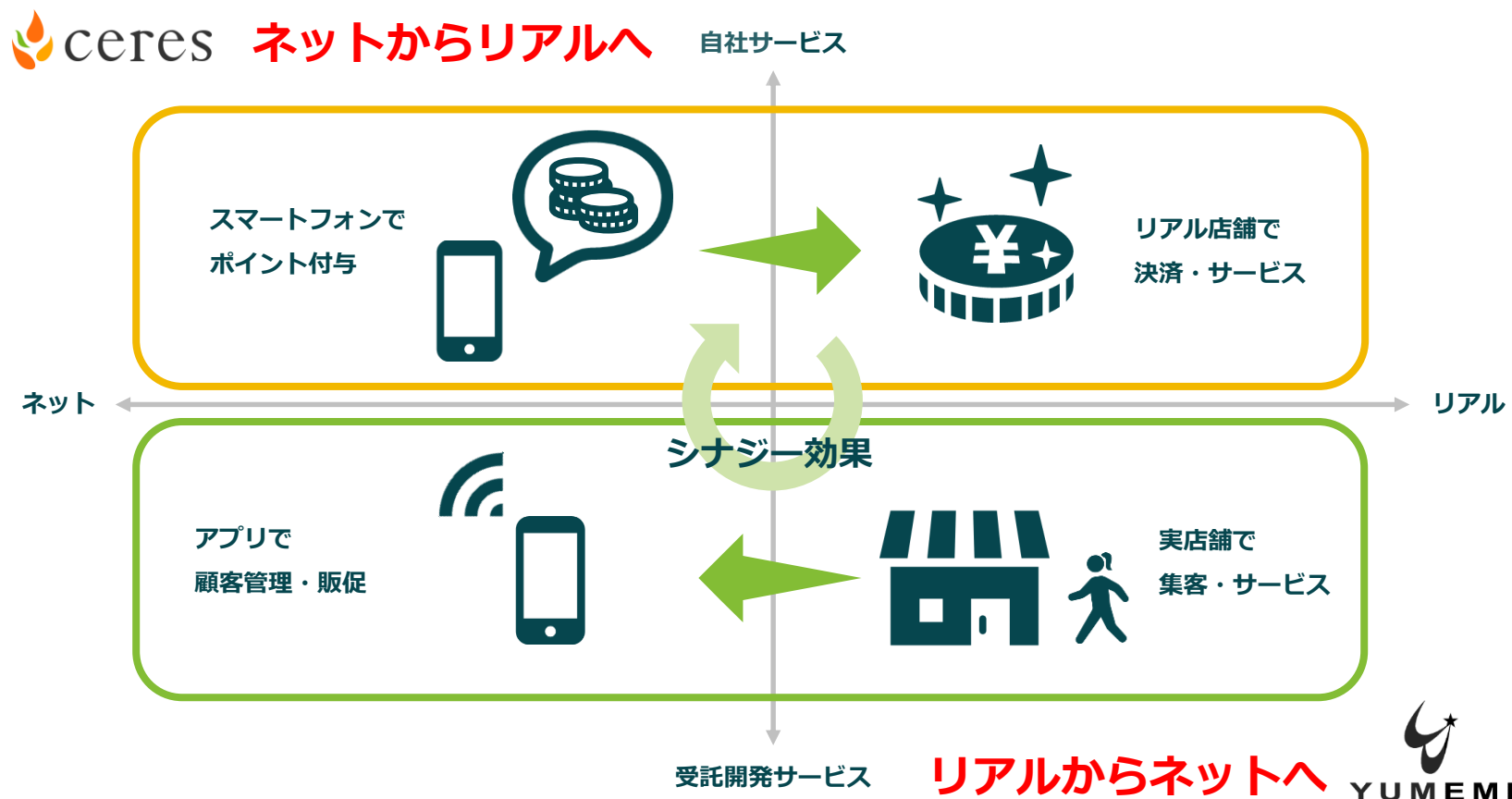
セレスグループとしてのO2O戦略の進展

ポイントを活かしたO2O事業に加え、多店舗展開をする小売・飲食チェーンに対しオムニチャネル支援を行いO2O戦略を推進

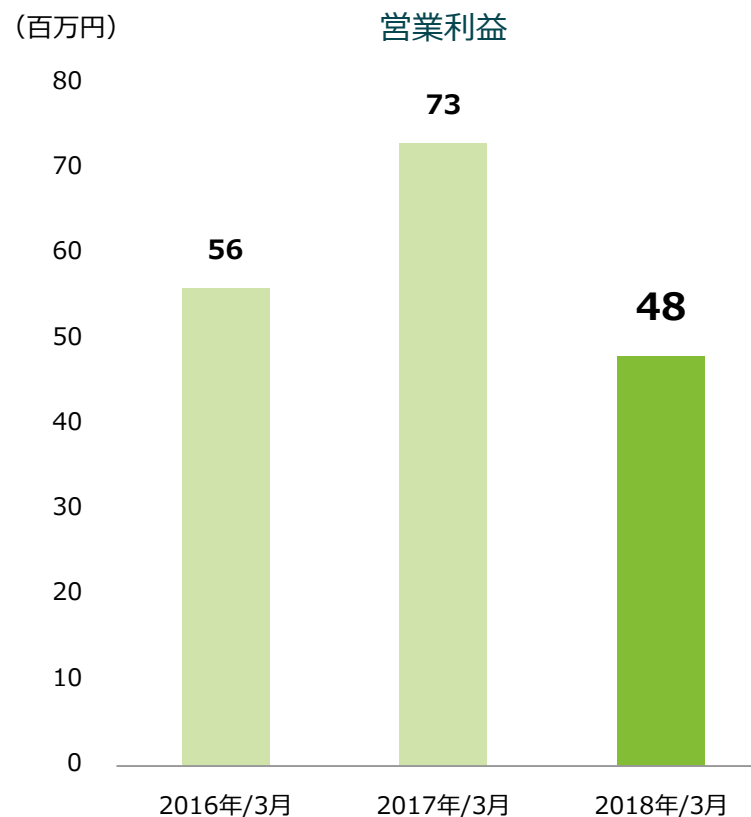
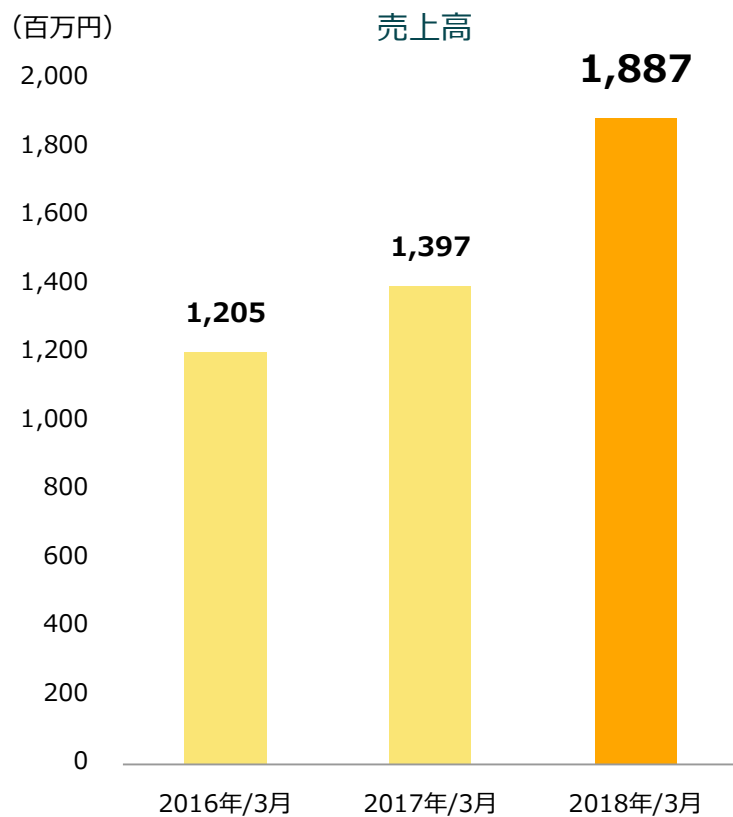
AI・IoTにおける技術レベルの向上

京大発の技術ベンチャーゆめみのグループ化により100名超のエンジニアを獲得、アプリ開発だけではなくクラウド・AI・IoT分野の技術力を強化

「ネットからリアル」のセレスと「リアルからネット」のゆめみ
両社の強みを活かしてO2O（オンラインtoオフライン）を推進



2016年資本参加時に比べ5割超の売上増を達成
開発力強化のための人材投資・研究開発も同時推進し成長余力大



「マーキュリー」は仮想通貨交換業者登録へ向け準備中
「ビットバンク」は業務改善命令を受け改善計画書を提出

株式会社マーキュリー



2017年9月に仮想通貨交換業参入のため設立

2018年1月に仮想通貨交換業の登録申請書提出

同時期に発生したコインチェックによる仮想通貨流出事件による規制強化の流れで遅延

現在、仮想通貨交換業者登録へ向けて経営管理体制及び内部管理体制の強化を図るとともに、取引所システムの構築中

ビットバンク株式会社



2017年9月に仮想通貨交換業登録事業者に

2018年6月に金融庁より業務改善命令を受け、7月に改善計画書を提出し業務改善中

仮想通貨の現物取引においては国内最大規模で、XRP取引では世界最大規模の取引所に成長

ブロックチェーンベンチャーでグルメSNS運営の「GINKAN」とクラウドファンディング大手の「CAMPFIRE」へ新たに投資実施

ブロックチェーン領域

仮想通貨バリューチェーン

マイニング



(2017年設立)



取引所



(100%子会社)



(アーンアウト付)



(関連会社)



(2015年提携)

ウォレット



(2016年出資)



(2017年出資)

資産管理



(2018年出資)

送金



(2016年開始)



(2017年開始)

アプリケーション



(2015年出資)



(2017年出資)



(2018年開始)



(2018年出資)

FinTech領域

valuedesign

(プロセッシングサービス・2016年IPO)

IT Realize

(CLO・2016年出資)



(InsurTech・2017年出資)

CAMPFIRE

(クラウドファンディング・2018年出資)



4. 2018年12月期 連結業績予想

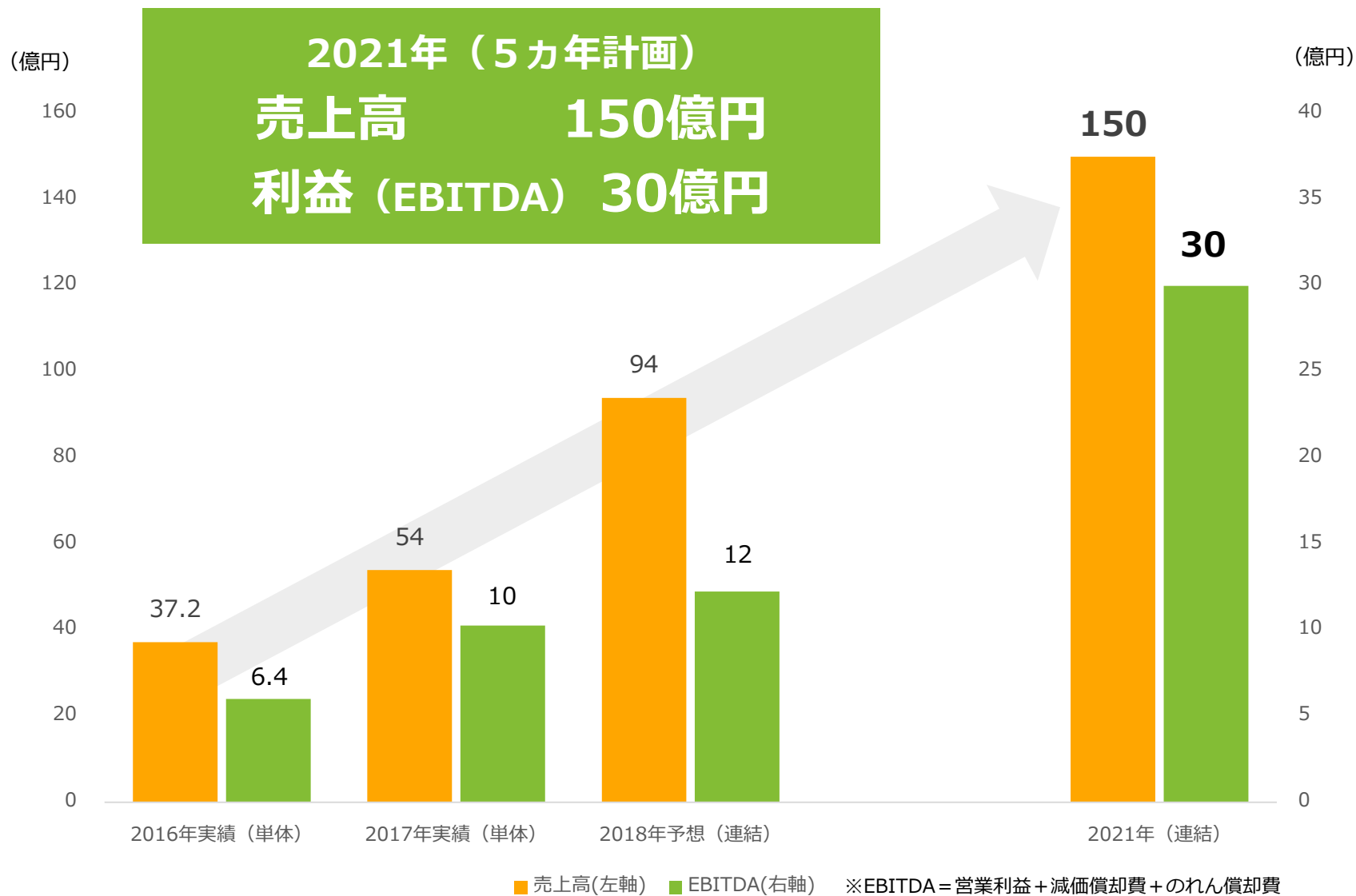
連結業績予想について

2018年7月に実施のゆめみ子会社化に伴い第3四半期から連結決算に移行。ゆめみに加え、連結決算移行に伴い仮想通貨取引所開設を準備中のマーキュリーと持分法関連会社のビットバンクを連結化。ゆめみ・ビットバンクの、のれん代償却や段階取得損益を反映。

(単位：百万円)	2017年12月期 単体通期実績	2018年12月期 単体予想	2018年12月期 連結業績予想	増減額	増減率	前年比(※)
売上高	5,400	7,600	9,400	1,800	23.7%	74.1%
営業利益	955	1,000	1,000	0	0.0%	4.6%
経常利益	960	990	1,000	10	1.0%	4.2%
当期純利益	650	645	750	105	16.3%	15.8%
1株当たり純利益 (円)	62.65	59.29	68.59	—	—	9.5%

※前年比は、2018年12月期連結業績予想数値と2017年12月期単体業績数値の比較となるため、参考数値となります。

中期経営計画（5カ年計画）





将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。